

日本女子大学教授

細川 幸一

「エシカル消費」という言葉が最近よく聞かれるようになってきた。そもそも「エシカル」とは英語で「ethical」（倫理的な）という意味だ。倫理感は一それぞれ異なる

概念



1

が、法律の定めはないけれども多くの人が正しいと思うこと、または本来、人間が持つ良心から発生した社会的規範を意味する。
このような本来の意味から派生して、人や社会、地球環境、地域に配慮した考え方や行動のことを指すようになり、特に豊かな消費社会において、誰でも消費者であるという点から、エシカル消費（倫理的消費）という概念が注目されてきた。
私たちが普段食べたり、飲んだり、着たり、使ったりし



消費行動通じてできる社会貢献

ている製品は全て、誰かがどこかで作ってくれたものである。
消費と生産が分離した現代の世の中では、私たち消費者が製品を手にした時、その裏側には、どんな背景があるかをなかなか知ることができない。
もしかしたら、その背後には劣悪な環境で長時間働く生産者や、教育を受けられず強制的に働かされている児童、

美しい自然やそこに住む動物が犠牲になっているかもしれない。今、世界の緊急課題である貧困・人権・気候変動の三つの課題を同時に解決していくために、「エシカル」という概念はとても重要となっている。
生産は消費のために行われる活動である。ならば、生産過程で貧困・人権・気候変動について問題が生じているとすれば、自らの消費のために

生産をさせている消費者が、日々の暮らしの中から、買い物を通して、世界が抱えている問題を解決に導く一端を担うことができるということができる。
すなわち、身近な消費という行動を通じて、今日から、明日から、誰にでもできる社会への貢献がエシカル消費という概念だ。
本連載では、このエシカル消費概念の登場や経緯、その意義、それを推進させるための条件などについて考察する。